

外科切除と化学療法により長期生存している 限局性の肝臓原発血管肉腫の犬の1例

○矢吹淳, 小出和欣, 小出由紀子(小出動物病院・岡山県)

【症例】

柴犬, 雌, 10歳8カ月齢。

【主訴と現病歴】

半年前からの多飲多尿と運動不耐性のため10日前に他院にて検査した際, 多血症と肝臓内腫瘍を指摘され, 精査および治療を希望し当院を紹介受診。なお他院にて入院下で60~160ml/回の瀉血を2~3日毎に4回(計420ml)実施したとのこと。混合ワクチン接種, フィラリア予防毎年実施。

【身体検査所見】

体重11.15kg, 体温38.5℃。左側第4乳腺に小豆大の腫瘍を認めた。なお心肺音, 可視粘膜色に異常は認められなかった。

【初診時臨床検査所見】

◎血液検査

CBCでは赤血球数($1063 \times 10^4 / \mu\text{l}$)とPCV(61%)の増加, MCV(55.3fl)とMCH(18.3pg)の低下を認めた。なお赤血球の再生像は認められなかった。血液化学検査ではALT(91U/l), GGT(11U/l), CK(150U/l), 血液尿素窒素(33.2mg/dl), 総鉄結合能($405 \mu\text{g/dl}$)の軽度上昇と血清鉄($70 \mu\text{g/dl}$)の軽度低下を認めた。凝血学的検査ではHPT(18.2sec)の軽度延長を認めた。なお他院にて測定した血清エリスロポエチン濃度は24.8mIU/ml, 動脈血酸素分圧は93mmHgであった。

◎単純X線検査

腹部単純X線検査では軽度の肝腫大と第2, 3, 4腰椎に変形性脊椎症を認めた(図1)。なお胸部単純X線検査では特記すべき異常は認められなかった。

◎超音波検査

腹部超音波検査において肝臓内に40×30mmのやや低エコーな結節病変を認め, 結節内には拍動性の豊富な血流を認めた(図2)。なお心エコー検査で異常は認められなかった。

◎CT検査

腹部単純CT検査で肝臓外側右葉に約45×30mmの低吸収域を認め(図3, 4矢印), 造影CT検査の門脈相で同部位は限界明瞭な濃染像を示した(図5, 6, 7, 8矢印)。なお胸部CT検査では特記すべき異常は認められなかった。

【診断・治療および経過】

以上の検査結果より肝臓外側右葉の腫瘍が疑われ, 外科的治療を前提に入院とし, 静脈内持続点滴, 抗生物質, H₂ブロッカー, 水溶性複合ビタミン剤の静脈内投与を行い, 入院5日目に手術を実施した。麻酔はミダゾラム, グリコピロレートの前投与後, プロポフォール静脈内投与により導入し, イソフルランと酸素の吸入で麻酔を維持した。呼吸管理は臭化ベクロニウムの間欠的静脈内投与下でベンチレーターによるIPPVとした。なお術中はクエン酸フェンタニルのCRIも実施した。

腹部正中切開により開腹すると, 肝臓外側右葉は一部が隆起しやや黄色化していた(図9)。超音波外科吸引装置を用いて外側右葉の完全肝葉切除を行い(図10), 尾状葉の肝生検と14G生検針による両側腎生検および卵巣子宮摘出術を実施後, 腹腔内を加温生理食塩水で十分に洗浄して閉腹し, 乳腺部の腫瘍を摘出して手術を終えた。切除した肝臓外側右葉内の腫瘍は60×50×40mmで, 内部は暗赤色化していた(図11, 12)。病理組織学的検査では, 肝臓外側右葉の腫瘍は血管肉腫, 乳腺部腫瘍は乳腺種, 卵巣子宮と(生検した)肝臓および腎臓に異常は認められなかった。

術後は術前同様の治療に加え, 手術翌日より塩酸モルヒネの皮下投与とメシル酸ナファモスタットを持続点滴に添加して投与した。術後は一過性の血尿と元気食欲の消失があったが徐々に回復し, 術後10日にドキシソルピシン30mg/m²を投与し, 術後11日に抗生物質, 利胆剤, H₂ブロッカーを処方し退院とした。退院後もドキシソルピシンの投与は継続し, 3週毎に計6回投与した。ドキシソルピシン投与後に嘔吐や下痢を認めることもあったが対症療法で治癒した。なお術前に認められていた多血症は術後速やかに改善し, 以後認められることはなかった。本症例は術後3年11カ月時のオーナーへの電話連絡で, 経過良好に推移しているとのことであった。

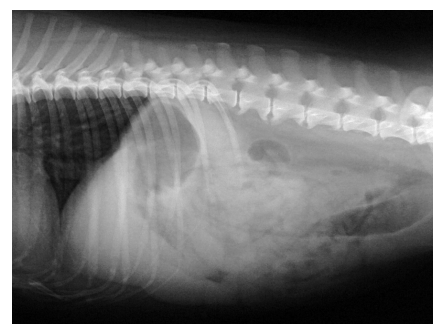


図1 腹部X線写真(RL像)

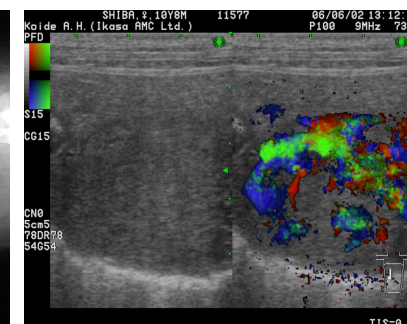


図2 腹部超音波検査(肝臓)

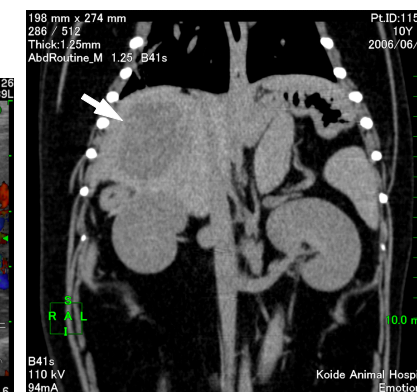


図3 腹部単純CT検査(コロナル像)

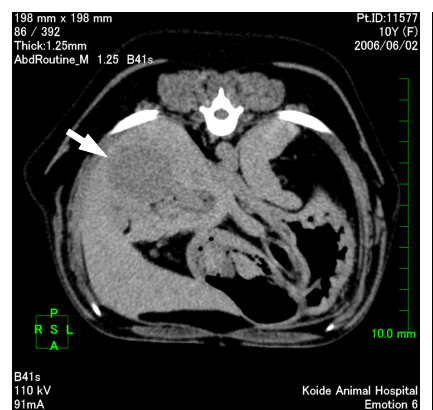


図4 同アキシャル像

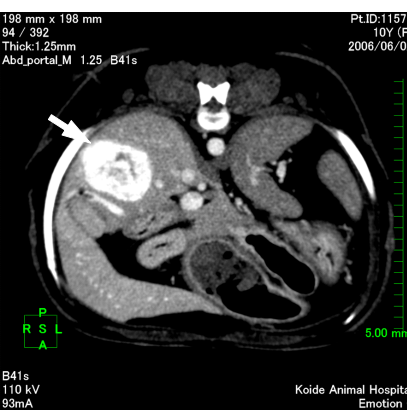


図5 腹部造影CT検査(アキシャル像)

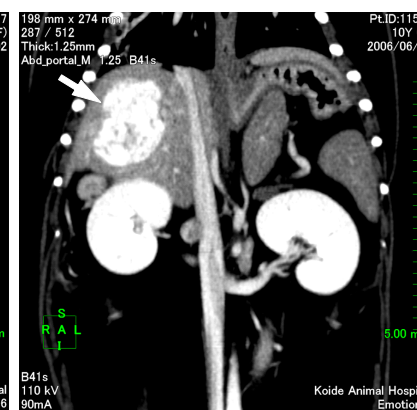


図6 同コロナル像

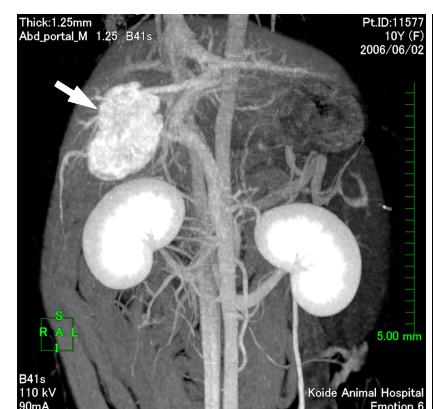


図7 腹部造影3D-CT検査(VD像)

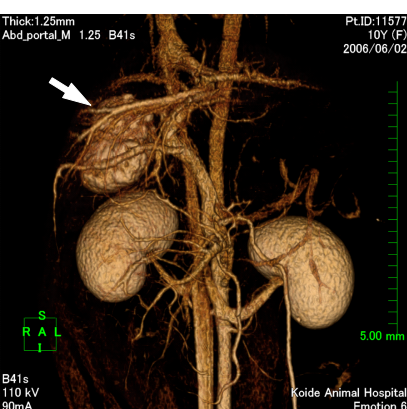


図8 同

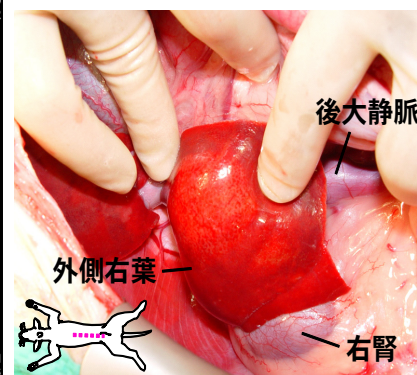


図9 手術時所見①

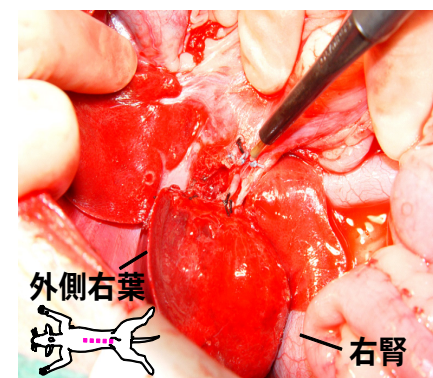


図10 同②

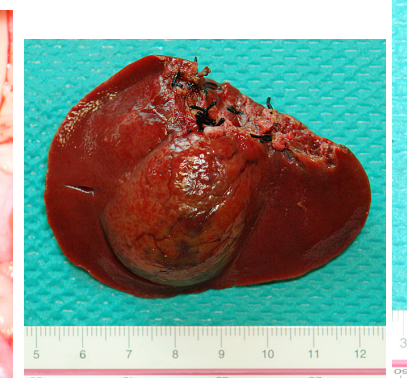


図11 摘出した外側右葉

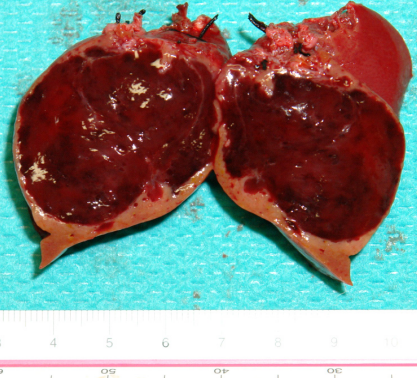


図12 同剖面